

Drax のペレット工場 カナダで環境法に 189 回違反

ジェイシム・ハンズパル & パーティ・ハリソン・ブロニンスキー

カナダの木質ペレット工場は、英国や日本などの国々にバイオマス燃料を輸出しながら、違法に川や湖を汚染し、湿地を破壊し、排出上限に違反した。

[BBC Newsnight が報じた](#)ように、*Land and Climate Review*による調査で、英国最大の発電所である Drax で燃やすために木材を輸出する施設で、何年も違法行為が繰り返されていたことが判明した。

違反行為には、ブリティッシュコロンビア州のエンダコ川を産業廃棄物で汚染したことや、大気汚染の検査と報告を何度も怠ったことなどがある。カナダ当局の記録によると、Drax Group がカナダから英国に木材を輸入し始めた 2012 年以降、カナダの環境規制違反は 189 回に及ぶ。

Drax は 2021 年に Pinnacle Renewable Energy を買収し、2022 年にはプリンストンの別の工場を買収したのち、現在これらの工場を所有しており、最近の違反のうち 25 件以上について直接責任を負うことになる。これらの違反には、アルバータ州の湿地帯が 1 つの施設により「[完全に破壊](#)」されたことや、連邦法に違反して国の規制当局に汚染を報告しなかったことなどが含まれる。

工場は当局が確認できるようにコンプライアンス履歴のコピーを現場に保管することが求められるが、プリンストンの施設を視察した後、検査官は「Drax が 2022 年後半にこの施設の運営を引き継いで以降、検査記録が提供されなかった」と不満を漏らした。

Drax の所有下でブリティッシュコロンビア州の「温室効果ガス産業報告・制御法」の違反は 4 回を数える。Drax は「2030 年までにカーボンネガティブになるという野心を発表した世界初のエネルギー会社」と[主張](#)している。

同社の温室効果ガス会計は、英国で政治的、科学的議論の対象となっている。英国政府は発電所で木材を燃やすことを公式に「カーボンニュートラル」とみなしているが、この分類は科学者の間で議論を呼んでいる。昨年、Drax の顧問は同社にこの表現の使用をやめるよう[勧告](#)した。

大気汚染騒動

違反の大半（181 件）は、ブリティッシュコロンビア州の環境管理法（1999 年）に基づき法的拘束力のある大気汚染関連許可規則の不遵守によるものだった。100 件を超える違反が、排出ガス試験と報告に関連している。

これには、粒子状物質（PM）汚染の許可上限を繰り返し超過したことが含まれる。州環境省の罰則文書では、微小粒子状物質による汚染が人間の健康に及ぼす「即時かつ長期的な影響」が言及されている。ある文書では、PM 汚染と「早期死亡」を[結び付ける](#)米国環境保護庁の情報を引用している。

いくつかのケースでは、検査官が工場が PM の法定上限の 2 倍以上を排出していることを発見し、1 つのケース（2018 年のバーンズレイク）では 3 倍以上の量を排出していた。こうした違反は Drax

の所有下でも続いており、バーンズレイク工場とプリンストン工場は2023年に複数回、2022年に1回、PM規制を超えている。

工場の検査官は5回にわたり、環境文書が「有資格の専門家によって署名されていない」ことを発見し、2019年には、バーンズレイクのペレット工場は、法的に操業停止を義務付けられていたにもかかわらず、大気汚染検査に不合格となった後も3か月間操業を続けた。

米国でDraxに対する同様の法的な訴えに取り組んできた Southern Environmental Law Center の弁護士、パトリック・アンダーソン氏は、「排出ガス試験に不合格になることは、起こり得る違反のうち最も重大なもの1つだ」と言う。

「粒子状物質の量の抑制は基本的なことだ。抑制のための機器は本当に初歩的なもの。ここでの問題は、Drax が汚染対策機器の保守をきちんとしていないことだ。これは企業が手抜きをしようとしているときに見られることだ」。

スミザーズ工場は、Pinnacle Renewable Energy が所有していた2019年に6回、2020年に3回、2021年に1回、大気汚染許可に違反した。

スミザーズ在住の元弁護士ジェイ・ギルデン氏は、この工場は以前の所有者が町の煙の発生を減らすと言った後、「地元住民の間でかなりの騒動を引き起こした」と述べる。Northern Engineered Wood Products 社 (Newpro) は当初、住民に対し、スラッシュ (slash) (伐採後に残る木材残渣) は屋外で焼却されるのではなく、新しい工場で汚染防止策を使用して処理されると約束していた。

「彼らはこの地域の大気汚染を減らすと人々に約束していた」とギルデン氏は語った。「それは一度も実現していない。この地域ではスラッシュは木質ペレットに使用されていない。代わりに、工場では丸太のまま使用している」。

2015年に公聴会が開かれた。この工場はNewpro社が開発したものだが、同社は以前同じ場所にパーティクルボード工場を所有していた。Land and Climate Review が閲覧した、Newpro社のために2015年にSLR Consulting社が作成した説明文書には、工場は「スラッシュの山の野焼きを防ぐ」ので「空気の質は改善される」と書かれていた。

ギルデン氏は、この地域を「絵葉書のような」と表現しながらも、「ここは州内で最も空気が悪い地域の一つだ。粒子状物質があるので、ハイキングは健康に良くない」と述べた。

2015年に行われたスミザーズ市議会の議事録によると、住民は空気からすべての有毒物をろ過できるわけではないことに懸念を示し、工場が大気質の要件を満たさない場合はどうなるのかと尋ねた。同じ会議で、Newproは工場が「PM2.5排出量を91%削減」し、「遵守していることを示すために定期的に監視する…空気の質が悪い場合は、空気レベルが許容レベルに戻るまで工場は操業を減らすか停止する」と主張した。

2018年に操業が開始されるまでに、Pinnacle Renewable Energy が工場の過半数株式 (70%) を取得し、Drax Group がそれを2021年に買収した。

2001年まで州政府で汚染防止技術者として働いていたジム・センカ氏は、新工場が本格稼働する直前の2018年にスミザーズを離れ、バンクーバー島に移住した。「バルクリー・バレーの空気の質が悪いことはよく知っていたので、怖かった」と同氏は言う。「空気は煙で満ちていた」。

スラッシュの野焼きや山火事も汚染の大きな原因だったことを認めつつも、センカ氏は、同地にあった以前の工場が「スミザーズの空気の質に大きく影響していた」とし、「新工場が素晴らしい町を離れる決断の要因だった」と述べた。

Drax Groupによる買収後、地元の活動家らはブリティッシュ・コロンビア州のジョージ・ヘイマン環境気候変動大臣に、スミザーズ工場の大気関連許可を取り消すよう申請した。

「私たちはその件を大臣に持ち込んだが、大臣は私たちの要求を拒否した」と、バルクリー・バレーの地域団体、Clean Air Nowのディレクター、レン・ヴァンダースター氏は語った。

「公聴会であることをすると言っておきながら、まったく逆のことをするなら、それは許可の取り消しや停止の根拠になるはずだ」と同氏は語った。

ブリティッシュコロンビア州の他のペレット工場と同様に、スミザーズ工場が2017年に取得した当初の許可では、州当局が調整するより広範な計画の一環として、「地元地域の共同大気質モニタリングプログラムに参加する」ことが求められていた。

それにもかかわらず、ブリティッシュコロンビア州環境省の大気質気象学者ベン・ワインスタイン氏は、州政府は「何年もの間」ペレット工場から大気質モニタリングに関連する費用を回収しようとしていないと言う。

「環境省が費用を負担している」と同氏は語った。「費用を回収する選択肢は常にあったが、意思決定者は費用の回収を要求していない」。

ブリティッシュコロンビア州環境気候変動戦略省の広報担当者は、*Land and Climate Review*への声明で次のように述べた。

「2015年、州は、Pinnacle Pellet が所有・運営するバーンズレイク工場の気象観測所を除き、バルクリー・バレー・レイクス地区 (BVLD) の大気分水嶺にあるすべての大気質観測所の監視費用について、単独で責任を負うことになった」。

検査報告書によると、バーンズレイク工場でも、2022年8月現在、「共同大気質プログラムは…運用されていない」という。

大気質関連許可や粒子状物質に関する違反に加え、ペレット工場は、2023年のスミザーズでの違反を含め、ブリティッシュコロンビア州の温室効果ガス産業報告・制御法に6回違反している。

[以前に報じられた](#)ように、*Land and Climate Review*は、アルバータ州ハイレベルにあるDrax Groupの工場が、排出量を国家レジストリに報告しなかったことで、2022年にカナダ連邦環境保護法に違反したことも明らかにした。

連邦規制当局は、期限内に報告しなかった企業は最大 50 万ドルの罰金を科せられる可能性があるとして述べた。その後、Drax に対する罰金手続きの可能性に関して問い合わせたものの返答はない。

湿地の破壊とパイプの漏れ

広範囲にわたる大気関連許可違反に加え、ペレット工場の敷地の水源が深刻に汚染されていることが複数の文書から明らかになった。

2019 年、ウィリアムズレイク工場の検査官は、町と工場の名前の由来となった湖に流れ込む排水路まで伸びる廃棄木材の山を現場で発見した。

これらの山の真ん中に溜まった「暗い液体の池」を見て懸念した検査官は、水質を検査し、ヒ素や鉛を含むさまざまな化学物質が下流に流出していることを発見した。

同様の出来事が 2015 年にバーンズレイクで記録され、検査官は排水パイプからエンダコ川に向かって「廃液」（液体廃棄物）が流れ出ているのを確認した。

最近では、2023 年 9 月に、Drax Group の子会社が、パークランド郡の 8 つの湿地を埋め立てたことで、アルバータ州の湿地再生プログラムに賠償金を支払うよう命じられた。執行命令では、同社は損傷した湿地、あるいは場合によっては「完全に破壊した」湿地を再生することができなかったとされている。

BC 野生生物連盟（BC Wildlife Federation）の保全管理マネージャーで、湿地管理パートナーシップ（Wetland Stewardship Partnership）のメンバーでもあるニール・フレッチャー氏は、破壊された湿地に対する罰則は「湿地の重要性や価値に関してアルバータ州が設定できる最高水準」であり、湿地が「非常に特異」であることを示していると述べた。

「これらは、北米全域で危険にさらされている種の 3 分の 1 にとって、本当に重要な生息地だ。今わたしたちは、これ以上多くの種を失うわけにはいかないという転換点に差し掛かっている。」

「業界が法律に従わないのは残念です。業界はもっとわきまえるべきだ。」

調達に関する質問

189 件の法規制の不遵守に加えて、*Land and Climate Review* は、Pinnacle Renewable Energy が、Drax Group による買収前後の 2021 年と 2022 年にオミネカ地域の木材のマーキングを怠ったことで森林法に違反したとして、州政府の天然資源担当官が正式な申し立てをしていたことを突き止めた。

木材のマークは木材の原産地を追跡する主な方法であり、老齢林や環境的に重要な木材の使用に関する疑惑が数多くある業界では透明性を保つために極めて重要である。

「英国の政策では、こうしたものを追跡する必要がある。管理の連鎖（chain of custody）の実施

が想定されている」と、衛星データを使用してブリティッシュコロンビア州の老齢樹伐採を監視する Stand. Earth の [Forest Eye](#) プロジェクトに携わるリチャード・ロバートソン氏は述べる。「Drax やこれらの企業は、一般的にサプライチェーンの一段階上にいるため、製材所の陰に隠れている」。

森林法の通知の1つが出されたのと同じ2022年、そしてその後2024年に、BBC Panorama は、Drax がブリティッシュコロンビア州の原生林から木材を調達したと報じた。

2024年2月29日、Drax は声明を発表し、同社は2023年10月に「老齢林伐採保留地域（OGDA）からの木質繊維の直接的な調達を停止する」決定を下し、「サプライチェーン全体でこの Drax の決定を実施する作業が進行中である」と述べた。ブリティッシュコロンビア州の原生林のほぼ半分（[47%](#)）は、法的に保護されておらず、OGDA の一部でもない。

カナダの森林団体 Conservation North のディレクター、ミシェル・コノリー氏は、「Drax が木材の産地に関する透明性を提供することを目的とした規則を遵守していないことは懸念される。特に、州政府が原生林の伐採を許可しているブリティッシュコロンビア州北中部でこれが起こっていることは懸念される」と述べた。

Drax が英国で差金決済契約および再生可能エネルギー発電源証明制度を通じて受け取るグリーンエネルギー補助金には、持続可能な調達基準が含まれているが、発電所の燃料の30%は免除されている。エネルギーシンクタンクの Ember の数字に基づいて Guardian 紙が報じたところによると、Drax は2022年に英国のエネルギー利用者が負担する補助金を [6億1,700万ポンド](#)、2021年には [8億9,300万ポンド](#) 受け取った。

2024年1月、英国の会計検査院はバイオマス発電が持続可能性のルールに準拠していることを保証するためにさらなる取り組みが必要であると述べ、同国のエネルギー規制機関である Ofgem は現在、Drax の補助金制度への順守状況について調査中である。

2023年5月の調査発表についての声明で Ofgem は次のように述べた。

「私たちは、Drax Power Limited が再生可能エネルギー義務制度およびその他の関連事項に関する年次プロファイリング報告要件に違反していないかどうかを調査している。

この調査の開始は、Drax Power Limited による違反の可能性について何らかの所見があることを意味するものではない」。

Drax の広報担当者は、「Drax は Ofgem の取り組みを全面的に支援しており、結論を待っている」と述べた。

国際的な懸念

罰金は12回科せられたが、Southern Environmental Law Center のパトリック・アンダーソン氏は「額は非常に低い」と述べた。ブリティッシュコロンビア州の環境管理法に基づく罰金は、違反の種類に応じて1万ドルから7万5000ドルの上限が設定されている。

カナダで工場に科せられた罰金のうち、公表されている最高額は、最高額に達した唯一の罰金で、その場合は4万ドルだった。12回の罰金のうち6回はわずか575ドルだった。Draxは、米国でミシシッピ州とルイジアナ州のペレット工場と同様の大気汚染許可違反により、それぞれ 250万ドルと 320万ドルの罰金処分を受けている。

Drax Groupは現在、英国政府からの2つの補助金決定を待っている。1つは、契約が2027年に終了した後もバイオマス発電への資金提供が継続されること、もう1つは、2030年から英国の発電所に炭素回収技術を追加することである。Heartland & Coによる 2023年の報告書では、同社グループの「財務諸表は、(英国)政府の補助金を受けなければ、事業は財務的に成り立たないことを示している」と述べられている。

英国の国会議員は *Land and Climate Review* の調査結果に反応し、保守党議員のセレイン・サクスピー氏は「Draxの木質ペレット調達に関する最新の報告書は非常に懸念される」と述べた。

「我々(英国政府)が石炭からの移行の一環として木質バイオマスからのエネルギー生成に補助金を出すことを最初に決定して以来、この技術に関する科学が変化したことは明らかだ。太陽光、風力、原子力発電など、はるかに持続可能な選択肢が開発され、改善されており、私は政府に対し、バイオマスエネルギー生成よりもこれらの技術を支援するよう求める」。

英国下院の父〔訳注：現職の最長連続任期の議員〕、ピーター・ボトムリー議員は、「海外で規則違反しているにもかかわらず、Draxは数十億ドルの公的資金を受け取っている。これらの調査結果は、Draxのグリーンウォッシュをさらに明らかにするものだ。[英国]政府が、国内最大の汚染者に消費者のお金を注ぎ込みながら、このような不正行為を免れるのは正しいことなのかと、多くの人が疑問に思うだろう」と述べた。

Draxの広報担当者は、「当社はすべての事業において環境コンプライアンスに取り組んでいる。Draxは、2021年4月にPinnacle Renewable Energyを買収して以来、カナダのペレット工場の基準引き上げに取り組んでおり、カナダの[環境省]や地元コミュニティ、先住民と緊密に協力しながら、すでに数百万ドルを投資して業務改善に取り組んでいる。」

「前進しているが、やるべきことはまだあると認識している」。

(翻訳：Land and Climate Review)